

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 枝光 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	北九州市の平均を下回っている。どの領域を見ても課題がある。その中でも「読むこと」領域は平均に近く、逆に、「我が国の言語文化に関する事項」に課題が大きい。
	よくできた問題	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える問題
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章と言葉などを結び付けるなどして必要な情報を見つけること。
算数	全体的な傾向や特徴など	北九州市の平均を下回っている。「数と計算」「データの活用」領域は平均に近く、「図形」や「変化と関係」領域に課題が大きい。
	よくできた問題	小数の計算、数量の関係を式に表し計算すること 比例の計算などの問題
	努力が必要な問題	分数、割合の問題
理科	全体的な傾向や特徴など	北九州市の平均を下回っている。「エネルギー」を柱とする領域は平均に近く、「地球」を柱とする領域に課題が大きい。、
	よくできた問題	植物の花のつくりや電磁石の仕組みについての問題
	努力が必要な問題	いろいろな金属の特性に関する問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概

質問調査の結果分析
・「普段の生活の中で、幸せな気持ちになること。」「友達関係に満足している。」「いじめはどんな状況にあっていけないことだと思う。」に概ね良好な回答をしている。
・「将来、人の役に立つ人間になりたい。」「地域や社会をよくするために何かしたい。」とシビックプライドが育っている。
・ICT機器（主にタブレット）を活用し、学習または家庭学習を進めることに慣れてきている。家庭等での学習に関して、家庭での学習の必要性や方法（自主学習、ICT活用）等を工夫させていく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

枝光っ子タイム（一部5分から10分に延長）で、音読や読書、コグトレに取り組む。チャレンジタイムで、ドリルアプリを活用し、基礎基本の習熟と学力の定着を図る。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

・継続的に自主学習ノートの取組（コンクールを実施）を進めることで、家庭での学習の質の向上を目指す。

・児童の自尊感情のさらなる高まりを目指すため、学校、学級だより、あったか放送、節目の振り返り等で、児童の頑張りと学校の目指すところを見え、家庭に向けて発信する。